

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2020-200057

(P2020-200057A)

(43) 公開日 令和2年12月17日(2020.12.17)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 6 5 D 83/08 (2006.01)	B 6 5 D 83/08	B 3 E 0 1 4
B 6 5 D 25/52 (2006.01)	B 6 5 D 25/52	D 3 E 0 6 2
A 4 7 K 10/18 (2006.01)	A 4 7 K 10/18	

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2019-106864 (P2019-106864)	(71) 出願人	000000918
(22) 出願日	令和1年6月7日 (2019.6.7)		花王株式会社
			東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番1 〇号
		(74) 代理人	110002170
			特許業務法人翔和国際特許事務所
		(72) 発明者	竹村 博明
			東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会 社研究所内
		(72) 発明者	中野 尚
			東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会 社研究所内
		Fターム(参考)	3E014 MA04 MC06
			3E062 AA09 AB10 AC02 FA02 FB02
			FC01 LA02 LA14 LA25

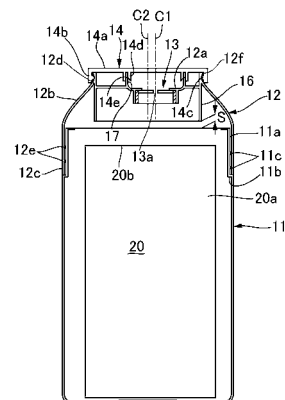
(54) 【発明の名称】 シート収納容器

(57) 【要約】

【課題】シートが引き出されて軽くなった場合でも、ロール状シートが容器本体の内部で動き易くなるのを抑制し、シートを容器の外にスムーズに取り出すことを可能にするシート収納容器を提供する。

【解決手段】シート20aを巻回してなるロール状シート20が収納される容器本体11と、容器本体11の上端開口を覆って容器本体11に着脱可能に装着され、シート11aを取り出すための取出部13を有する蓋体12とを含んで構成されるシート収納容器10である。取出部13には、シート止めスリット13aが形成されており、蓋体12には、内側から容器本体11側に突出して、ロール状シート20の上端面20bを当接可能な環状当接リブ16が、取出部13の外周部分を囲んで設けられている。シート止めスリット13aが形成された取出部13は、その中心位置C1を、容器本体11の中心位置C2から偏心させた状態で設けられている。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

シートをロール状に巻回してなるロール状シートが収納される有底筒形状の容器本体と、該容器本体の上端開口を覆って該容器本体に着脱可能に装着され、上面部にシートを取り出すための取出部を有する蓋体とを含んで構成されるシート収納容器であって、

前記蓋体の前記取出部には、シート止めスリットが形成されており、前記蓋体には、内側から前記容器本体側に突出して、前記ロール状シートの上端面を当接させることが可能な環状当接リブが、前記取出部の外周部分を囲んで設けられており、

前記シート止めスリットが形成された前記取出部は、その中心位置を、前記容器本体の中心位置から偏心させた状態で設けられているシート収納容器。

10

【請求項 2】

前記環状当接リブは、前記容器本体及び前記蓋体と同心状に配置されて設けられている請求項 1 記載のシート収納容器。

【請求項 3】

前記容器本体は、有底円筒形状を備えており、前記環状当接リブは、円環形状を備えている請求項 1 又は 2 記載のシート収納容器。

【請求項 4】

前記環状当接リブは、前記蓋体が前記容器本体に装着された状態で、前記容器本体の上端開口を超えない高さで前記蓋体の上面部の内側から前記容器本体側に突出して設けられている請求項 1～3 のいずれか 1 項記載のシート収納容器。

20

【請求項 5】

前記シート止めスリットが形成された前記取出部は、その中心位置を、前記容器本体の中心位置から、前記環状当接リブの内径の 3～25% の偏心量で偏心させた状態で設けられている請求項 1～4 のいずれか 1 項記載のシート収納容器。

【請求項 6】

前記環状当接リブは、前記容器本体の中心位置から、前記ロール状シートの半径の 1/2 以上、径方向に離れた領域に設けられている請求項 1～5 のいずれか 1 項記載のシート収納容器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

30

【0001】

本発明は、シート収納容器に関し、特に、ロール状シートが収納される容器本体と、シートを取り出すための取出部を有する蓋体とを含んで構成されるシート収納容器に関する。

【背景技術】

【0002】

例えばウェットシート等のシートをロール状に巻回してなるロール状シートが収納されるシート収納容器として、有底円筒形状の容器本体と、容器本体の上端開口を覆って容器本体に着脱可能に装着される、蓋体とからなる容器が知られている（例えば、特許文献 1 参照）。このようなシート収納容器では、蓋体に、公知のシート止めスリットが形成された取出部が設けられている。シートは、帯状に連続して延設する当該シートを巻回して形成された、円柱形状のロール状シートの中央の中空芯部において、最内側層のシートから順次引き剥がされるようにして、蓋体側に連続して引き出されると共に、取出部に形成されたシート止めスリットを介して容器の外に取り出され、当該シートに設けられたミシン目等の部分で切り離されて、端部をシート止めスリットに保持させた状態で、一枚一枚の単位シートとして用いられることになる。

40

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2013-227046 号公報

50

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

従来のシート収納容器では、ロール状シートからシートを引き出し始めた初期の段階では、ロール状シートが相当の重量を保持しているので、中央の中空芯部において最内側層のシートから順次連続して引き剥がす際の抵抗力をロール状シートによって安定して支持して、スムーズに蓋体側に引き出すことが可能であるが、例えばある程度の量のシートが引き出されて、ロール状シートが軽くなったり中空芯部の内径が大きくなったりすると、最内側層のシートを引き剥がす際の抵抗力を安定して支持することが難しくなって、ロール状シートが容器本体の内部で動き易くなると共に、中空芯部から、例えば複数層に重ね合わされたままの状態の内側層のシートがまとめて引き出されることにより、シート止めスリットの部分で詰まり易くなって、シートを容器の外にスムーズに取り出すことが困難になる場合がある。

【0005】

本発明は、容器本体に収容されたロール状シートからある程度の量のシートが引き出されて、ロール状シートが軽くなった場合でも、ロール状シートが容器本体の内部で動き易くなるのを効果的に抑制すると共に、中空芯部から、内側層のシートが複数層に重ね合わされたままの状態ですべて引き出されるのを回避して、シートを容器の外にスムーズに取り出すことのできるシート収納容器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明は、シートをロール状に巻回してなるロール状シートが収納される有底筒形状の容器本体と、該容器本体の上端開口を覆って該容器本体に着脱可能に装着され、上面部にシートを取り出すための取出部を有する蓋体とを含んで構成されるシート収納容器であって、前記蓋体の前記取出部には、シート止めスリットが形成されており、前記蓋体には、内側から前記容器本体側に突出して、前記ロール状シートの上端面を当接させることが可能な環状当接リブが、前記取出部の外周部分を囲んで設けられており、前記シート止めスリットが形成された前記取出部は、その中心位置を、前記容器本体の中心位置から偏心させた状態で設けられているシート収納容器を提供することにより、上記目的を達成したものである。

【発明の効果】

【0007】

本発明のシート収納容器によれば、容器本体に収容されたロール状シートからある程度の量のシートが引き出されて、ロール状シートが軽くなった場合でも、ロール状シートが容器本体の内部で動き易くなるのを効果的に抑制して、シートを容器の外にスムーズに取り出すことができる。

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図1】本発明の好ましい一実施形態に係るシート収納容器の斜視図である。

【図2】本発明の好ましい一実施形態に係るシート収納容器の縦断面図である。

【図3】本発明の好ましい一実施形態に係るシート収納容器を構成する蓋体の、(a)は上蓋を外した状態の平面図、(b)は(a)のA-A線断面図、(c)は(a)のB-B線断面図、(d)は底面図である。

【図4】シートを取り出す際の蓋体による作用を説明する、(a)略示縦断面図、(b)は模式図である。

【図5】シートを取り出す際の蓋体による作用を説明する、(a)略示縦断面図、(b)は模式図である。

【発明を実施するための形態】

【0009】

図1及び図2に示す本発明の好ましい一実施形態に係るシート収納容器10は、例えば

10

20

30

40

50

不織布からなるシートが、洗浄液等の液体成分を含浸した状態でロール状に巻回されているロール状シート20を、容器本体11に収容している。シート収納容器10は、蓋体12に設けられた取出部13（図2参照）を介して、収容したロール状シート20からシート（ウェットシート20a）を容器の外に連続して取り出すことを可能にすると共に（図4（a）、（b）参照）、取り出したウェットシート20aを、例えば予め設けられているミシン目等で切り離して、一枚一枚の単位シートとして使用できるようにする容器として用いられる。洗浄液としては、水、抗菌成分、界面活性剤等が含まれている。本実施形態のシート収納容器10は、ある程度の量のウェットシート20aが使用されて、ロール状シート20が軽くなった場合でも（図5（a）、（b）参照）、ロール状シート20が容器本体11の内部で動き易くなるのを抑制すると共に、ロール状シート20の中央の中
10
空芯部21から、内側層のウェットシート20aが複数層に重ね合わされたままの状態であ
まとめて引き出されるのを回避して、ウェットシート20aを収納容器10の外にスム
ーズに取り出すことができるようにする機能を備えている。

【0010】

そして、本実施形態のシート収納容器10は、図1及び図2に示すように、シートとして、好ましくはウェットシート20aをロール状に巻回してなるロール状シート20が収
納される有底筒形状の容器本体11と、容器本体11の上端開口を覆って容器本体11に
着脱可能に装着され、上面部12aにウェットシート11aを取り出すための取出部13
を有する蓋体12とを含んで構成される容器である。蓋体12の取出部13には、シート
止めスリット13aが形成されており、蓋体12には、内側から容器本体11側に突出し
20
て、ロール状シート20の上端面20bを当接させることが可能な環状当接リブ16が、
取出部13の外周部分を囲んで設けられている。シート止めスリット13aが形成された
取出部13は、その中心位置C1を、容器本体11の中心位置C2から偏心させた状態で設
けられている。

【0011】

また、本実施形態では、シート収納容器10は、好ましくは、容器本体11が有底円筒
形状を備えており、環状当接リブ14は円環形状を備えている。

【0012】

本実施形態では、ロール状シート20を形成するウェットシート20aは、延設方向と
垂直な横幅が例えば100～170mm程度（本実施形態では、135mm）の、带状に
30
連続して延設するシートとなっており、ロール状に巻回されることによってロール状シ
ート20が形成される。ロール状シート20は、例えば直径が50～100mm程度（本実
施形態では、70mm）、高さが100～170mm程度（本実施形態では、135mm）
の、容器本体11に収容可能な大きさの円柱形状を有している。ロール状シート20の
高さは、ウェットシート20aの横幅に相当する。円柱形状のロール状シート20は、こ
れの中央部分に、両側の端面の間を貫通するようにして中空芯部21（図4（a）、図5
（a）参照）を残置した状態で、ロール状に巻回されている。この中空芯部21を介して
、ウェットシート20aを、最内側層のものから順次引き剥がして、蓋体12側に連続し
て引き出すことができるようになっている。带状に連続して延設するウェットシート20
aには、延設方向において例えば110～180mm程度（本実施形態では、150mm）
40
の所定の間隔毎に、ミシン目等による切り離し案内線（図示せず）が、横幅方向を横断
して形成されている。ロール状シート20の中空芯部21から引き出されたウェットシ
ート20aは、取出部13に形成されたシート止めスリット13aを介して収納容器10の
外に取り出され、ミシン目等による切り離し案内線よりも容器本体11側の部分をシート
止めスリット13aに保持させた状態で、ミシン目等による切り離し案内線の部分で切り
離されて、例えば110～180mm程度（本実施形態では、150mm）の長さを有す
る一枚一枚の単位シートとして用いられることになる。

【0013】

ロール状シート20を収容する容器本体11は、例えばポリエチレン、ポリプロピレン
等のポリオレフィンやポリエチレンテレフタレート等のポリエステル等を用いたブロー成
50

形品となっている。容器本体 11 は、図 1 及び図 2 に示すように、好ましくは外径が 60 ～ 150 mm 程度（本実施形態では、97 mm）の大きさの有底の円筒形状を備えており、また例えば 110 ～ 200 mm 程度（本実施形態では、160 mm）の高さを有している。容器本体 11 は、上端部に、段部 11b を介して僅かに縮径した装着筒部 11a を備えており、この装着筒部 11a の外周面には、後述する蓋体 12 を着脱可能に螺着させるための雄ネジ凸条 11c が設けられている。装着筒部 11a の上端開口は、容器本体 11 の内部にロール状シート 20 を収納させるための収納口となっている。シート収納容器 10 の流通、販売時や、使用前の状態では、容器本体 11 に収納されたロール状シート 20 から、ウェットシート 20a に含浸した液体成分を揮散させないように、装着筒部 11a の上端開口は、アルミ箔等（図示せず）で覆って閉塞しておくことができる。例えば消費者は、蓋体 12 を容器本体 11 から一旦取り外した後に、装着筒部 11a の上端開口からアルミ箔等を除去し、ロール状シート 20 から引き出したウェットシート 20a の端部を、取出部 13 のシート止めスリット 13a を介して取出部 13 の外側に臨ませて、蓋体 12 を容器本体 11 に再び装着することにより、ウェットシート 20a を容器の外に取り出して使用可能な状態とすることができる。

10

【0014】

容器本体 11 に着脱可能に一体として装着される蓋体 12 は、例えばポリエチレン、ポリプロピレン等のポリオレフィンやポリエチレンテレフタレート等のポリエステル等を用いた射出成形品となっている。蓋体 12 は、図 3（a）～（d）にも示すように、容器本体 11 の装着筒部 11a に装着される装着スリーブ部 12c と、縮径部 12b と、上面部 12a とを含んで構成される。装着スリーブ部 12c は、容器本体 11 の外径と同様の外径を有する円環帯状の部分であり、縮径部 12b は、装着スリーブ部 12c の上端部から上方の上面部 12a に向けて滑らかに縮径する部分である。縮径部 12b の上端部分の上面部 12a との接続部分には、上端を頂部とする三角形の断面形状を備える周壁部 12d が、上面部 12a の略全周に亘って連続して設けられている。本実施形態では、周壁部 12d の上端部に、蓋体 12 の取出部 13 を覆う上蓋 14 が、着脱可能に装着される（図 1、図 2 参照）。

20

【0015】

装着スリーブ部 12c は、容器本体 11 の装着筒部 11a に螺着される部分であって、容器本体 11 の胴部の外径と同様の外径を有すると共に、装着筒部 11a と同様の高さを有している。装着スリーブ部 12c の内周面には、雌ネジ凸条 12e が設けられている。この雌ネジ凸条 12e を、容器本体 11 の装着筒部 11a の雄ネジ凸条 11c に螺合することによって、蓋体 12 を、容器本体 11 に着脱可能に一体として装着することができる。

30

【0016】

縮径部 12b は、装着スリーブ部 12c の上端部から上方の上面部 12a に向けて滑らかに縮径する部分となっている。縮径部 12b が設けられていることにより、シート収納容器 10 の全体の意匠性を向上させている。

【0017】

周壁部 12d は、上面部 12a の周囲を囲むようにして、円環形状に延設する部分となっており、縮径部 12b の上端部に連なる斜辺部と、上面部 12a の周縁部から立設する立設部とからなる、三角形の断面形状を有している（図 3（c）参照）。周壁部 12d の上端部には、上蓋 14 の係合リブ 14c（図 2 参照）を係合させるための係合凸部 12f が設けられている。

40

【0018】

上蓋 14 は、図 1 及び図 2 に示すように、周壁部 12d の上端部の外側に嵌め込むようにして装着可能な、周壁部 12d の外径と同様の内径を備える円形状の部分となっている。上蓋 14 は、円形の天面部 14a と天面部 14a の周縁部から下方に突出して設けられた装着スカート部 14b とからなる。装着スカート部 14b の内側面から環状に突出して、係合リブ 14c が設けられている。上蓋 14 は、装着スカート部 14b を弾性変形させ

50

つつ周壁部 1 2 d の上端部に上方から押し込むようにして、係合リブ 1 4 c を周壁部 1 2 d の上端部の係合凸部 1 2 f に係合させることにより、蓋体 1 2 の取出部 1 3 を覆って着脱可能に取り付けることができる。

【0019】

また、上蓋 1 4 には、下面側から突出して、同心状に 2 重に配置された、内側係止リング 1 4 d 及び外側係止リング 1 4 e が設けられている。取出部 1 3 を覆って上蓋 1 4 が装着された際に、これらの内側係止リング 1 4 d 及び外側係止リング 1 4 e が、蓋体 1 2 の上面部 1 2 a から外側に突出して取出部 1 3 の外周部分を囲んで環状に設けられた、封止リング 1 7 の上端部に、当該上端部を挟み込むようにして係止される。これによって、シート収納容器 1 0 の非使用時に、取出部 1 3 の上方空間を封止して、ウェットシート 2 0 a やロール状シート 2 0 に含浸した液体成分が揮散するのを、効果的に回避することが可能になる。

10

【0020】

そして、本実施形態では、図 3 (a) ~ (d) に示すように、好ましくは周壁部 1 2 d によって周囲を囲まれる蓋体 1 2 の上面部 1 2 a には、ウェットシート 1 1 a を取り出すための、シート止めスリット 1 3 a が形成された取出部 1 3 が設けられている。また蓋体 1 2 の好ましくは上面部 1 2 a の内側から容器本体 1 1 側に突出して、ロール状シート 2 0 の上端面 2 0 b を当接させることが可能な環状当接リブ 1 6 が、取出部 1 3 の外周部分を囲んで設けられている。環状当接リブ 1 6 は、蓋体 1 2 の縮径部 1 2 b の内側から容器本体 1 1 側に突出して設けることもできる。

20

【0021】

取出部 1 3 は、その中心位置 C1 を、容器本体 1 1 の中心位置 C2 から偏心させた状態で設けられた、取出開口 1 3 b を含んで構成されている。本実施形態では、取出部 1 3 の中心位置 C1 は、容器本体 1 1 の中心位置 C2 から偏心させた状態で設けられている。上面部 1 2 a の内側には、取出開口 1 3 b の周囲を囲うようにして当該取出開口 1 3 b と同心状に配置された、環状のスリット部材係止リブ 1 3 c が、容器本体 1 1 側に突出して設けられている。このスリット部材係止リブ 1 3 c に嵌め込むようにして、公知の例えばエラストマー材料からなるスリット形成部材 1 3 d が装着固定されることによって、シート止めスリット 1 3 a が取出部 1 3 に形成される。

【0022】

環状当接リブ 1 6 は、好ましくは円環形状を備えるリブとなっており、好ましくは容器本体 1 1 に収納される円柱形状のロール状シート 2 0 の直径よりも小さく、且つロール状シート 2 0 の直径の $1/2$ よりも大きな外径を有するように形成される。これによって環状当接リブ 1 6 は、好ましくは容器本体 1 1 の中心位置から、ロール状シート 2 0 の半径の $1/2$ 以上、径方向に離れた領域に設けることが可能になる。環状当接リブ 1 6 が、容器本体 1 1 の中心位置から、ロール状シート 2 0 の半径の $1/2$ 以上、径方向に離れた領域に設けられることにより、未使用時の状態からロール状シート 2 0 が消費されることで中空芯部 2 1 が大きくなった場合でも、確実に環状当接リブ 1 6 の下端にロール状シート 2 0 の上端面 2 0 b を接触（当接）させることが可能になる。

30

【0023】

また、環状当接リブ 1 6 は、容器本体 1 1 及び蓋体 1 2 と同心状に配置されて設けられていることが好ましい。環状当接リブ 1 6 が、容器本体 1 1 及び蓋体 1 2 と同心状に配置されて設けられていることにより、ロール状シート 2 0 の上端面 2 0 b を環状当接リブ 1 6 の下端に全周に亘って接触させ易くすることが可能になる。

40

【0024】

さらに、環状当接リブ 1 6 は、蓋体 1 2 が容器本体 1 1 に装着された状態で（図 2 参照）、容器本体 1 1 の装着筒部 1 1 a による上端開口を超えない高さで、蓋体 1 2 の上面部 1 2 a の内側から容器本体 1 1 側に突出して設けられていることが好ましい。これによって、シート収納容器 1 0 の流通、販売時や、使用前に、ロール状シート 2 0 のウェットシート 2 0 a に含浸した液体成分の揮散を防止するために取り付けられた、装着筒部 1 1 a

50

の上端開口を覆うアルミ箔等を傷付けることなく、蓋体 12 を容器本体 11 に装着することが可能になる。容器本体 11 の装着筒部 11 a による上端開口と、環状当接リブ 16 の下端部との間の隙間は、2 ～ 10 mm に保持しておくことが好ましい。環状当接リブ 16 の厚さは、ロール状シート 20 を形成するウェットシート 20 a の厚さよりも大きくなっていることが好ましく、例えば 1 mm 程度となっていることが好ましい。環状当接リブ 16 の下端の位置は、全周に亘って同じ高さ位置となっていることが好ましい。これによって、ロール状シート 20 の上端面 20 b を安定した状態で支持して、ロール状シート 20 が持ち上ろうとするのを押えることが可能になる。また、環状当接リブ 16 の下端が容器本体 11 の装着筒部 11 a による上端開口まで届いていないことで、中空芯部 21 から引き出したウェットシート 20 a を、取出開口 13 b に至るまで、環状当接リブ 16 に接触し難くすることが可能になる。これによって、引き出し途中のウェットシート 20 a が、環状当接リブ 16 との接触抵抗によって、意図せずにミシン目等による切り離し案内線の部分で切り離されるのを、効果的に回避することが可能になる。

10

【0025】

そして、本実施形態では、蓋体 12 の上面部 12 a のシート止めスリット 13 a が形成された取出部 13 は、その中心位置 C1 を、容器本体 11 の中心位置 C2 から偏心させた状態で設けられている。取出部 13 が、その中心位置 C1 を、容器本体 11 中心位置 C2 から偏心させた状態で設けられていることにより、後述するように、中空芯部 21 において内層側のウェットシート 20 a に全面で張り付いているシートを、シートの上部に張り付いている端部から順次内側方向に引き剥がすようにしながら、斜めに引っ張り出すことが可能になって、ウェットシート 20 a をスムーズに取り出すことが可能になる。このような観点から、取出部 13 は、その中心位置 C1 を、容器本体 11 の中心位置 C2 から、環状当接リブ 16 の内径の 3 ～ 25 % の偏心量で偏心させた状態で設けられていることが好ましく、環状当接リブ 16 の内径の 3 ～ 15 % の偏心量で偏心させた状態で設けられていることがより好ましく、環状当接リブ 16 の内径の 5 ～ 10 % の偏心量で偏心させた状態で設けられていることがさらに好ましい。

20

【0026】

本実施形態のシート収納容器 10 では、上述のように、例えば消費者は、蓋体 12 を容器本体 11 から一旦取り外した後に、装着筒部 11 a の上端開口からアルミ箔等を除去し、ロール状シート 20 から引き出したウェットシート 20 a の端部を、取出部 13 のシート止めスリット 13 a を介して取出部 13 の外側に臨ませて、蓋体 12 を容器本体 11 に再び装着することにより、ウェットシート 20 a を容器の外に取り出して使用可能な状態とする。しかる後に、図 4 (a)、(b) に示すように、消費者は、取出部 13 の外側に臨むウェットシート 20 a の端部を手で持って、ウェットシート 20 a を引き出せば、ウェットシート 20 a は、容器本体 11 に収容されたロール状シート 20 の中央の中空芯部 21 から、最内層のシートが順次引き剥がされるようにして引き出されて、収納容器 10 の外に連続して取り出される。取り出されたウェットシート 20 a は、ミシン目等による切り離し案内線の部分で切り離されて、端部をシート止めスリット 13 a に保持させた状態で、一枚一枚の単位シートとして用いることができる。

30

【0027】

本実施形態のシート収納容器 10 では、ロール状シート 20 からウェットシート 20 a を引き出し始めた初期の段階では、ロール状シート 20 が相当の重量を保持しているので、中央の中空芯部 21 において最内側層のウェットシート 20 a から順次連続して引き剥がす際の抵抗力を、ロール状シート 20 によって安定して支持して、スムーズに蓋体 12 側に引き出すことが可能である。また、ウェットシート 20 a を引き出し始めた初期の段階でも、取出部 13 が、その中心位置 C1 を、容器本体 11 の中心位置 C2 から偏心させた状態で設けられているので、中央の中空芯部 21 において最内側層のウェットシート 20 a を、より引き剥がし易くして、内側層のウェットシート 20 a が複数層に重ね合わされたままの状態でもまとめて引き出されるのを、効果的に回避することが可能になる。

40

【0028】

50

一方、図5(a)、(b)に示すように、例えばある程度の量のウェットシート20aが引き出されて、ロール状シート20が軽くなったり中空芯部21の内径が大きくなったりすると、最内側層のウェットシート20aを引き剥がす際の抵抗力を安定して支持することが難しくなって、ロール状シート20が容器本体11の内部で持ち上がったたりするなど動き易くなると共に、中空芯部21から、例えば複数層に重ね合わされたままの状態の内側層のウェットシート20aがまとめて引き出されることにより、シート止めスリット13aの部分で詰まり易くなって、ウェットシート20aを収納容器10の外にスムーズに取り出すことが困難になる場合がある。

【0029】

本実施形態のシート収納容器10によれば、このように容器本体11に収容されたロール状シート20が軽くなった場合でも、ロール状シート20が容器本体11の内部で動き易くなるのを効果的に抑制すると共に、中空芯部21から、内側層のウェットシート20aが複数層に重ね合わされたままの状態ですべて引き出されるのを回避して、ウェットシート20aを容器の外にスムーズに取り出すことが可能なる。

【0030】

すなわち、本実施形態のシート収納容器10によれば、蓋体12には、上面部12aの内側から容器本体11側に突出して、ロール状シート20の上端面20bを当接させることが可能な環状当接リブ16が、取出部13の外周部分を囲んで設けられており、シート止めスリット13aが形成された蓋体12の取出部13は、その中心位置C1を、容器本体11の中心位置C2から偏心させた状態で設けられている。

【0031】

これらによって、本実施形態によれば、ロール状シート20が軽くなることで、中空芯部21で最内側層のウェットシート20aを引き剥がす際の引き出し力によって、例えばロール状シート20が引き上げられるようにして上方に移動しようとしても、環状当接リブ16の下端部が、例えばロール状シート20における、ウェットシート20aが取り出される中央の中空芯部21から離れた外周領域において、ロール状シート20の上端面に好ましくは環状に連続して当接することにより、ロール状シート20が容器本体11の内部で動き易くなるのを効果的に抑制することが可能になる。また、取出部13は、その中心位置C1を、容器本体11の中心位置C2から偏心させた状態で設けられているので、環状当接リブ16に当接させることによってロール状シート20の動きを抑制したこととの相乗効果により、中空芯部21において内層側のウェットシート20aに全面で張り付いているシートを、シートの上部に張り付いている端部から順次内側方向に引き剥がすようにしながら、斜めに引っ張り出すことが可能になって、ウェットシート20aをスムーズに取り出すことが可能になる。

【0032】

なお、本発明は、上記の実施形態に限定されることなく、種々の変更が可能である。例えば、容器本体は、有底円筒形状を備えている必要は必ずしもなく、楕円断面形状や、その他の断面形状を有する有底筒形状を備えていても良い。環状当接リブは、円環形状を備えている必要は必ずしもなく、楕円断面形状や矩形断面形状等、その他の断面形状を有する環形状を備えていても良い。ロール状シートが軽くなって上方に移動した際に、環状当接リブの下端部は、ロール状シートの上端面において環状に連続して当接する必要は必ずしも無く、上方への移動の仕方によっては、例えばロール状シートが斜めに傾きながら持ち上がることで、その一部のみが当接するようになっていても良い。環状当接リブは、容器本体及び蓋体と同心状に配置されている必要は必ずしも無く、偏心した状態で配置されていても良い。収納されるロール状シートは、液体成分を含浸させたウェットシートを巻回したものである必要は必ずしも無く、液体成分を含浸していないシートや、その他の種々のシート材料をロール状に巻回して形成することもできる。また、蓋体の取出部を覆う上蓋は、上述のようなかぶせ蓋によるものの他、蓋体にネジ嵌合される蓋や、蓋体に対して回転可能にヒンジ連結された蓋等の、公知の種々の蓋を用いることができる。

【符号の説明】

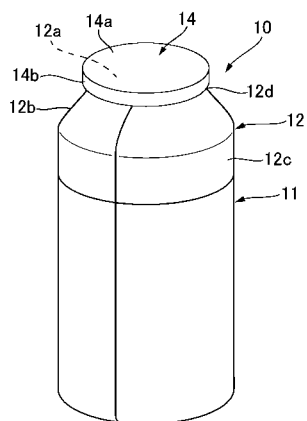
【 0 0 3 3 】

- | | |
|-------|--------------|
| 1 0 | シート収納容器 |
| 1 1 | 容器本体 |
| 1 1 a | 装着筒部 |
| 1 1 b | 段部 |
| 1 2 | 蓋体 |
| 1 2 a | 上面部 |
| 1 2 b | 縮径部 |
| 1 2 c | 装着スリーブ部 |
| 1 2 d | 周壁部 |
| 1 3 | 取出部 |
| 1 3 a | シート止めスリット |
| 1 3 b | 取出開口 |
| 1 3 c | スリット部材係止リブ |
| 1 3 d | スリット形成部材 |
| 1 4 | 上蓋 |
| 1 6 | 環状当接リブ |
| 1 7 | 封止リング |
| 2 0 | ロール状シート |
| 2 0 a | ウェットシート（シート） |
| 2 1 | 中空芯部 |
| C 1 | 取出部の中心位置 |
| C 2 | 容器本体の中心位置 |

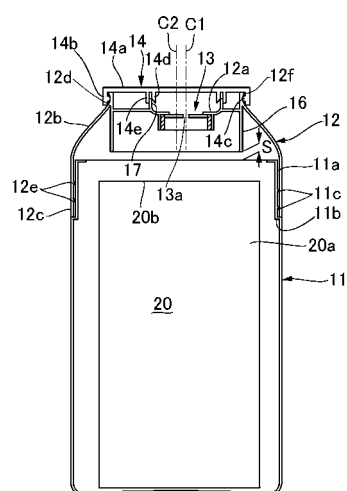
10

20

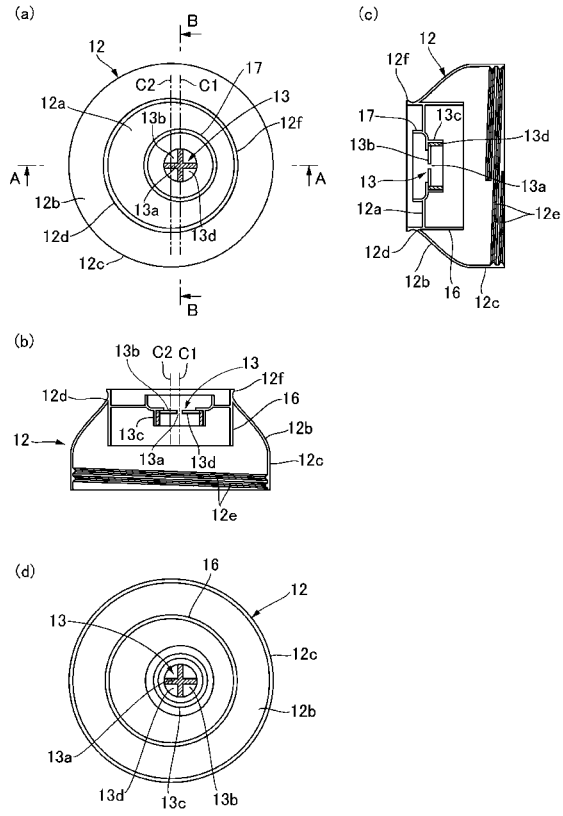
【图 1】



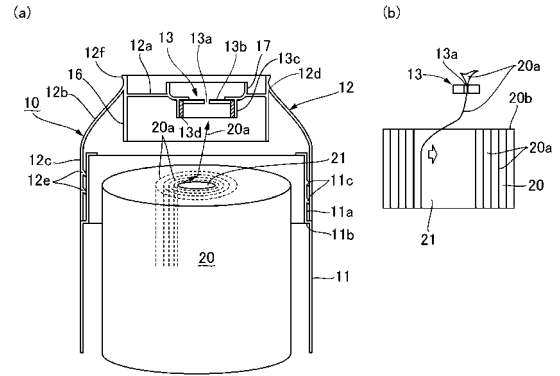
【图 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

